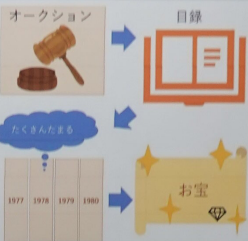


古典籍展観大入札会目録のデータベース

今回私たちがデータベース化したものは、「古典籍展観大入札会目録」(以下、目録と表記)です。この目録は古典籍展観大入札会という古典籍のオークションで出品されているものをまとめたもので、1971年から毎年発行されています。今回データベース化した1977年度の目録では2162点の古典籍の情報が掲載されています。

目録を所蔵している機関は少なく、所蔵していても全巻揃えていることはまれです。国立国会図書館でも所蔵していない巻があります。鶴見大学は42冊所蔵しています。

目録に掲載されている古典籍は、現存し所在のわかっているもの他に、現在行方分からない非常に貴重なものもあります。(1)目録だけでこれらの情報を見つけることは手間がかかります。しかしデータベース化することによって、目的の情報を見つけることが、早く容易にできるようになります。



①目録に掲載されていた現在所在のわかっている古典籍



今現在、目録に掲載されている中で行方分からない資料の例に、鶴見大学に所蔵されている書籍があります。

完成したデータベース

<検索の流れ>



目録では著者、形式などの項目分けはされていません。そこで、データベースの利用者が検索をする際に様々なアプローチが出来るよう、細かい項目分けを行いました。これにより、例えば「刊行書写年」で「天保」というキーワードを検索すると「刊行書写年」が「天保」のものがヒットするようになります。(★1)(2)

目録には蔵書印の有無の項目はありません。そのため蔵書印を探すときにはまず、目録の該当ページを開き、それから画像ページを見て確認をしなければなりません。今回のデータベースでは蔵書印の項目を作ったことにより、蔵書印の有無と書名や著者名などで複合検索が可能になりました。この項目を作るために一つ一つ画像を確認し、有無を入力しました。(3)、(4)

上記のデータを作成するうえで、情報の正確性を高めるためにまず2班に分かれてデータを入力しました。それを「AiperDiff version 5.00」を使って統合し、二つのデータ間で異なるものは再度確認の上でより適したものに変更して登録しました。(5)

今後の展望

1977年度の目録のデータだけではデータベースとして活用が難しいので、別年度の目録データを追加していけるようにしたいです。画像から読み取れる蔵書印などの情報を、テキスト化して検索できるようにすると蔵書印の研究者にとってより使いやすいデータベースになるでしょう。

②項目

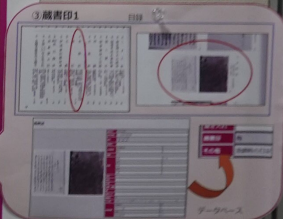
項目	内容
著者	著者名
書名	書名
形式	形式
書写年	書写年
蔵書印	蔵書印の有無
画像	画像の有無

目録のデータを、作成した項目に合わせてExcelに入力しました。項目は多すぎて大変だったため、またデータの入力間違いを防ぐためにも、似たような項目はまとめて、数を調整しました。何れも入力できないときは◎を入力しました。

⑤データの統合画面



AiperDiff version 5.00を使って統合作業を行いました。入力情報違ったら色がつきます。



④蔵書印2 酒竹文庫

蔵書印は異なる蔵書印の有無を証明します。目録に掲載されていることから、少なくともその蔵書印は存在していることが分かります。酒竹文庫は本館蔵書印が所蔵しており、本館蔵書印と蔵書印が一致していることが1977年度の目録に「酒竹文庫」の蔵書印を押し付けた古典籍が掲載されていることです。

このように、行方がわからなくなった古典籍を蔵書印から探すことができるのです。

